

2026年3月19日

関西エアポート 新たにJブルークレジット認証を取得 ～関西国際空港島の藻場における CO2 吸収量が増加～

関西エアポート株式会社は、関西国際空港島護岸の藻場における CO2 吸収効果が認められ、新たにJブルークレジット*認証を取得したことをお知らせします。

海洋生物の作用によって海に貯留された炭素は「ブルーカーボン」と呼ばれ、CO2 の新たな吸収源として注目されています。関西国際空港島では、護岸の大部分に「緩傾斜石積護岸」を採用し、海藻の種付けや保護・育成、モニタリング調査などを通して長年にわたり豊かな藻場環境の創造に取り組んできました。近年では、保護ネットを用いた海藻の保護や、次世代を担う幼体の着生を促す新しい基盤の設置などの新しい取り組みにも積極的にチャレンジすることで、安定した藻場環境の維持・育成に努めています。

2025年3月の当社実施調査において、空港島周辺護岸に広がる藻場面積が66haに達し、そこには合計58種類の海藻が生育していることを確認しました。継続的な取り組みの効果もあり、藻場面積は前回調査時（2022年）から約2割増加し、過去最大規模を記録しています。また、藻場は豊かな生態系を育む場として機能しており、空港島護岸ではキジハタやコブダイをはじめとする様々な魚介類も確認されています。

今回のJブルークレジット認証では、最新の藻場の観察面積に加え、ワカメをはじめとする大型海藻だけでなく小型海藻の基礎データを収集することで、多種多様な海藻が生育する藻場の CO2 吸収量をより精緻に評価した結果、前回よりも多くの CO2 吸収効果が認められました。

関西エアポートグループでは、温室効果ガスの排出量を2050年までに実質ゼロ、また、自然との共生（健全な生態系確保への貢献）をするという長期ビジョン目標を実現するため、環境負荷低減に向けたあらゆる取り組みを推進してまいります。

* JBE（ジャパンブルーエコノミー技術研究組合）が認証・発行し、管理するクレジット。JBE から独立した第三者委員会による審査・検証を経て認証・発行される。[ジャパンブルーエコノミー技術研究組合](#)

● 認証結果（令和7年度（2025年度）第3回Jブルークレジット認証・発行）

プロジェクト名称	関西国際空港 豊かな藻場環境の創造
クレジット認証対象期間	2022年04月1日から2025年03月31日まで（3か年）
認証対象吸収量	280.3 [t-CO2]

（参考）前回のJブルークレジット認証・発行（2022年度）

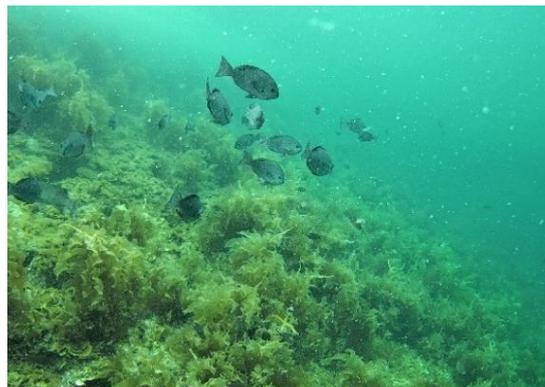
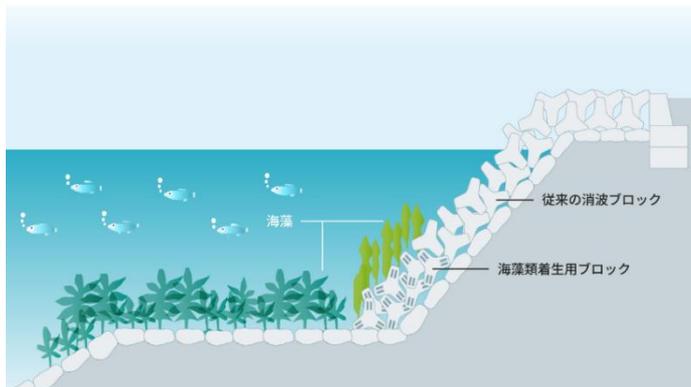
クレジット認証対象吸収量 103.2 [t-CO2] 対象期間 2017年度～2021年度（5か年）



3月19日認定証授与の様子

[参考資料]

● 関西国際空港の護岸と藻場



人工構造物である空港島と周辺海域との調和をめざし、空港島建設時に緩傾斜石積護岸が造成されました。海面に対して垂直な「直立護岸」と異なり、緩やかな勾配でつくられるため、より広い範囲に光が届き、海藻が育ちやすい環境となっています。

護岸造成時には、海藻の種付けや着生用ブロックの設置などの工夫を行い、その後 35 年以上にわたり、藻場の保護・育成に継続的に取り組んでいます。

詳細はこちら [関西エアポート HP](#)

● 関西国際空港島に生育している海藻と魚類（一部）



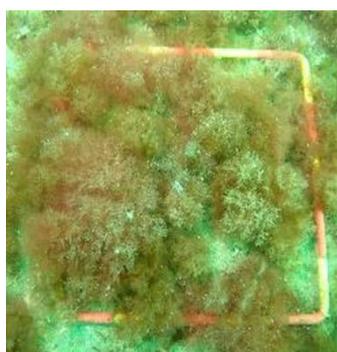
ワカメ（大型海藻）



シダモク（大型海藻）



カゴメノリ科（小型海藻）



イギス科（小型海藻）



コブダイ・イシダイ・メジナ



【報道関係の方からのお問い合わせ先】

関西エアポート株式会社
グループコーポレートコミュニケーション部
パブリックリレーション
Tel : 072-455-2201



関西エアポート株式会社は、オリックス株式会社と VINCI Airports (ヴァンシ・エアポート) を中核とするコンソーシアムにより設立されました。関西国際空港 (KIX) および大阪国際空港 (ITAMI) の運営を新関西国際空港株式会社から引継ぎ、2016年4月1日より両空港の運営会社として事業を開始しています。

また、2018年4月1日からは関西エアポート株式会社の100%出資会社である関西エアポート神戸株式会社が、神戸空港 (KOBE) の運営を神戸市から引継ぎ、事業を開始しました。

“One 関西エアポートグループ”として、空港の安全とセキュリティを最優先に、適切な投資と効率的な運営によって国内外からの空港利用者へのサービスを強化してまいります。また、関西3空港の可能性を最大限に引き出し、地域コミュニティへの貢献につなげてまいります。

詳しくは、関西エアポートグループホームページ: www.kansai-airports.co.jp/ をご参照ください。

関西エアポート株式会社 (関西国際空港および大阪国際空港の運営)

本社	大阪府泉佐野市泉州空港北1番地 大阪市西区西本町一丁目4番1号 (登記上)	株主	オリックス株式会社 40%、 ヴァンシ・エアポート 40%、 その他の出資者 20% ¹
代表者	代表取締役社長 CEO 山谷 佳之 代表取締役副社長 Co-CEO ブノア・リュロ		
事業内容	関西国際空港および大阪国際空港の運営業務、管理受託業務等		

関西エアポート神戸株式会社 (神戸空港の運営)

本社	兵庫県神戸市中央区神戸空港1番	株主	関西エアポート株式会社 100%
代表者	代表取締役社長 CEO 山谷 佳之 代表取締役副社長 Co-CEO ブノア・リュロ		
事業内容	神戸空港の運営、維持管理業務等		



オリックスグループについて

1964年に設立されたオリックスグループは、法人金融、産業/ICT機器、環境エネルギー、自動車関連、不動産関連、事業投資・コンセッション、銀行、生命保険など、多角的に事業を展開する企業グループです。現在は、世界約30カ国・地域において、約36,000人の役職員により事業を展開しています。

オリックスグループの社会における存在意義は、「世の中がよりよい方向に進むきっかけとなる、“未来をひらくインパクト”をもたらすこと」です。このPurposeを軸に、グローバルで一体となり、社会に貢献してまいります。

詳細は <https://www.orix.co.jp/grp/> をご覧ください。



世界有数の空港運営事業者であるヴァンシ・エアポートは、14カ国において70以上の空港を運営しています。総合インテグレーターとしてのノウハウを駆使して空港の開発、資金調達、建設、運営を行うとともに、その投資能力と専門知識を活かした空港運営の最適化、施設改修、環境経営推進に取り組んでいます。

ネットワーク全体で2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロ (スコープ1および2) にすることを目標に掲げ、ステークホルダーの取り組みをサポートするため、2016年から他の空港運営事業者に先駆けて国際的な環境戦略を展開しています。

詳細は www.vinci-airports.com をご覧ください。

¹ 株式会社アシックス、岩谷産業株式会社、大阪瓦斯株式会社、株式会社大林組、オムロン株式会社、関西電力株式会社、近鉄グループホールディングス株式会社、京阪ホールディングス株式会社、サントリーホールディングス株式会社、株式会社JTB、積水ハウス株式会社、ダイキン工業株式会社、大和ハウス工業株式会社、株式会社竹中工務店、南海電気鉄道株式会社、NTT西日本株式会社、パナソニックホールディングス株式会社、阪急阪神ホールディングス株式会社、レンゴー株式会社、株式会社池田泉州銀行、株式会社紀陽銀行、株式会社京都銀行、株式会社滋賀銀行、株式会社南都銀行、日本生命保険相互会社、株式会社みずほ銀行、三井住友信託銀行株式会社、株式会社三菱UFJ銀行、株式会社りそな銀行、株式会社民間資金等活用事業推進機構